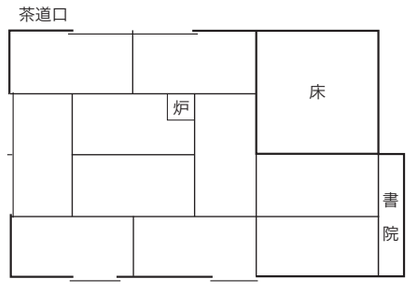
實性寺 表千家茶道の5月稽古

残月亭写し「聴松軒」での稽古

聴松軒

［聴松軒広間］



薫風

【5月の稽古】
〈5回に分けて〉

一、初炭
一、運びの盆香合
一、濃茶
一、唐物（真）
一、薄茶

【道具組】

［掛物］ 即中斎自画讃「薫風　粽画」
［花入］ 水瓶
花 「牡丹」「芍薬」「夏ロウバイ」「紫蘭（白）」
［釜］ 刷目
風炉 鉄道安
敷瓦 織部
［水指］ 唐津　共蓋
［香合］ 即中斎好写　ごま竹　菖蒲
炭斗 油竹
羽根 白鳥
火箸 少庵型
［茶入］ 膳所　尻張
仕服 綾花紋
［茶碗］ 赤　玉藻

紫蘭（白）

夏ロウバイ

ごま竹

替 木米写
〃 安南
［茶杓］ 銘「ホトトギス」　太玄老師
［茶器］ 建水 真塗中棗
蓋置 唐銅　エフゴ
［菓子器］ 竹　引切り
［干菓子器］ 志野　木瓜型
菓子 席主絵　二葉葵
とらや「あやめ饅」「三保の浦」「なすび餅」「ちまき」「柏餅」
干菓子 「味噌煎餅」「麦落雁」
莨盆 桐　手付き
火入 染付
莨入 切泊　たとう
濃茶 「祥雲の昔」　柳桜園
薄茶 「珠の白」　柳桜園
［書院］ 伏見五月人形

伏見五月人形

【稽古の内容】

◆薄　茶
広間運び　中置仕舞をすること
運び共蓋水指　こぼしの上で水切りすること

◆濃　茶　独客濃茶「一客一亭」
●亭主　茶杓をかまえ相伴挨拶
●客　亭主へ先礼、送り礼
●亭主　茶の飲みよう
●客　茶碗帛紗の拝見所望

◆唐　物（真）

◆初　灰

◆運びの盆香合
炭を次ぎ終われば羽根で清め、盆香取りに水屋へ
香を焚き、拝見へ
釜を正面に寄せ、水を次ぎ釜を清める

運びの盆香合